

教訓生かして闘いを

不当判決報告集会で決意

不当判決が出された十一月二十五日、午後五時から労働金庫大牟田支店ホールで、不当判決報告集会が開かれました。

まず森書記長が、「本日の福岡地裁の判決は、定年退職前倒しを認めず、不当判決で怒りがこみあげてくる。今後の対応は十分議論して決めるが、この裁判の意義は大きい。今後の労働運動に生かされなければならない」とあいさつ。

報告に立った小島弁護士は、「血も涙もない不当判決であり、自身のものだった」と前置きし、争点に対する判断について批判を加えながら内容を説明しました。

また、「今日の司法反動の中で、容易なことでは勝てないとは予想していたが、労働者の状態と気持を汲み、まともに物事を考えない判決だ」と指摘。「この裁判闘争によって三池でもその後整理解雇は出されず、全国的に解雇を抑制させた意義は大きい。内容から見て、この判決が悪影響を及ぼすことはない。不当判決に負けないうでたたかいて」と結びました。



一部機関が「裁判所が権力を行使し、原告全員を団結してよくたたかいた」と述べ、支援助と協力を表した。

闘い抜いた誇りを胸に

三池遺族会が定期総会

三池遺族会の総会を十二月六日午前十時から組合事務所で開催、委任を含めて五十一人が参加しました。今年も、二十年間欠かさず続けてきた団結旅行を中止したこともあって、久しぶりに皆んなに会えるという早見えられた方もありました。

私達は、昭和三十八年十一月九日のあの悲惨な出来事を片時も忘れることはできません。災害の直後から必死にたたかってきたが、たった四十万円の弔慰金とわずかな退職金が頼りの細い生活。遺族と被災者の要求で、災害直後からかけずりまわり、労働災害もつ科学者である。パブル期の蓄積問題をつかれて「非常識」と言いつつ、科学的反証を願いたい。さらに庶民の生活苦をよそに「不況だからアベレロ論」は、日経連がまとめた、ゆとり・豊かさ社会をめぐす「これからの経営と労働」の提言にも反しないかどうか。

〇：「春がなければよい」「日経連」、「春よよい」として労使もジャブの応酬。内閣改造がどう響くか、ともかく冷えたんだ不況を溶かす政労使のホットな奮闘論争が期待される。六二億だった。

有効求人倍率低下

十月労働省調べ

十月の有効求人倍率が〇・九六倍となり、八八年五月以来四年四月ぶり、二倍を切ったと十二月一日、労働省が発表した。

有効求人倍率は有効求人数を有効求職者数で割ったもので、景気の動向を示す一つの指標。

十月の新規求人は、製造業が前年同月より二・八・九減ったのをはじめ全産業で減少し、全都道府県で十月の倍率が前年同月より低下した。

ちなみに、オイルショックの余波を受けた七、七八年は〇・五六倍。円高不況後の八六年は〇・六二億だった。

三池の教訓

三池の災害後、労災法の改正のたたかいが大きな柱になりました。当時の制度では基本給の千日分で打ち切りでした。遺族年金と労災年金の併給を要求してたたかいた結果、昭和四十一年十一月に改正が実現しました。しかし法律はさかばりません。私達の場合はいきま。

（事務局長・永江美由紀）

労相対日経連

逆風

〇：冷えたんだ年の瀬のパブル不況の中で、早くも春闘をめぐるホットな争いが始まった。火付け役はなんと近藤労働相。日経連に対し「パブル期の蓄積で討論会」と呼びかけた。昨年に続いて、政府対財界の春闘論争として注目される。

〇：労相の言い分は、「日経連が厳しいうらと、消費が下がって景気をさらに厳しにする。企業も赤字になっていて、パブルは少ない。パブル時代の蓄積利益を活用して前向きな対応を、減(四)・二(多)にもかわらず、

〇：永野会長は工学博士号を

石炭労協、統一へ一歩

炭労、全炭鉱、炭職協が政策、労働条件で共同強化

石炭労働組合協議会(石炭労働約六千人)は十二月四日、東京のホテル・ラングウッドで第十一回定期総会を開き、新活動方針と新役員を決めた。

石炭労協は炭労、全炭鉱、炭職協で構成。三組織が八〇年につづいた「石炭労働三団体政策推進会議」の設置をふまえて、八四年十一月にゆるやかな共同組織を結成した。

活動方針は今年四月から実施されている「第九次石炭政策」に関して、政府予算削減決定での「概算要求」完全実施、補助金の拠出などを求めている。

石炭鉱業年金の給付内容改善をすすめる、厚生年金の支給開始年齢引き上げには反対の取り組みを行っていく。

統一化の方針では、北海道の三井岩別鉱がすでに閉鎖され、組合員の減少が見込まれていること、産別としての機能強化の必要などを背景にして、石炭労協三組織の一本化をめざす。

役員改選では、藤原福夫会長の退任を承認。あわせて新会長に安永嗣氏(全炭鉱、労協前会長)、新副会長に志道清夫氏(炭労、労協前執行委員)らを選出した。新会長に選ばれた安永氏は「炭鉱マンとしての誇り、心意気を前面に、運動に全力を注ぎたい」と決意を表明した。

関連各省に要請行動

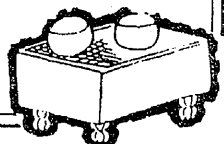
新年度石炭予算の確保で

石炭労協は四日、大会終了後通産・労働両省に対して九次策の具体化と新年度の予算確保についての要請行動を実施した。

七月段階で、「均衡点を高いものにする」と「あらかじめ対策が十分なものになる」とを要請していたが、八月に出された両省の概算要求では、それに応えるものになっていないことからあらためて要請を行った。

要請内容は、①概算要求は一〇〇%を実現すること。②現存炭鉱対策として、物価の上昇、労働環境の整備、炭価の引き下げなどを配慮して補助金などの拠出を実現すること。③閉鎖・転換企業に対する補償策の拡大運用をはかること。④生産量が維持され、人員が減少した場合も規模縮小の対象とし、一定の人員補充を許容すること。⑤現存炭鉱近隣の活性化、など。

囲碁愛好会が新春囲碁大会



三池労働組合愛好会では、次のように新春囲碁大会を開催しますので多数ご参加下さい。

とき 1月10日(日) 午前9時開会

ところ 三池労働事務所

※ 昼食・飲み物を準備しています。